

I
幸せは踏まれて育つ



以下は『雑草の生きざま』20頁～26頁「シロツメクサ
四つ葉のクローバーの見つけ方」からの抜粋です。

シロツメクサ

四つ葉のクローバーの見つけ方

野外実習で私が学生たちを集めて、説明していたことである。

「あった！」と一人の学生が声を上げた。

どうやら足下を見て、四つ葉のクローバーを探していたらしい。たまたま見つけたのが、その学生だっただけで、聞いてみれば他の学生も四つ葉のクローバーを探していたと言う。

誰も私の話を聞いていなかったのだ。

四つ葉のクローバーは、今も昔も人気である。スマホなどのデジタル機器に囲まれて育った学生たちも、クローバーを見れば童心に戻って四つ葉を探し出すのだ。

「ここで幸せを探すのは止めて下さい」私は学生たちを制して説明を続けた。

四つ葉のクローバーは幸せのシンボルとして知られている。

自慢ではないが、私は四つ葉のクローバーを見つけたことは、ほとんどない。学生たちにヒントを出してもらって、「この範囲にあるので探して下さい」と目の前まで連れて行かれても、なかなか見つけることができない。

私は幸せを見つけるのが本当に苦手なのだ。

学生の中には、ときどき四つ葉のクローバーを探すのが得意な学生がいて、「マここにあります」「マここにもあります」と歩きながら、四つ葉のクローバーを次々と見つけていく。どうやって見つけるのか学生に聞いてみると、向こうから目に飛び込んで来るのだと言う。別の学生は四つ葉のクローバーは、光って見えると言っていた。

世の中には生まれながらにして、幸せな人というのは、いるものだ。

*

四つ葉のクローバーは、図鑑の名前ではシロツメクサという。

シロツメクサは学名を「トリフォーラム」という。これは「三つ葉」という意味である。

シロツメクサは、もともとは三つ葉だが、ときどき四つ葉が発生する。見つけるのが難しいので、幸せのシンボルとされているのだ。

四つ葉のクローバーは、世界中で幸せのシンボルとして知られている。

四つ葉のクローバーの言い伝えは、もともと、アイルランドを訪れた司教聖パトリックの教えに由来している。

キリスト教の布教のために、アイルランドを訪れた聖パトリックは、アイルランドで神聖視されていた「シャムロック」に着目した。

シャムロックはシロツメクサを含む三つ葉のクローバー類のことである。もともと、アイルランドの文化に影響を与えたケルト人にとって「3」は神聖な数字であった。また、冷涼なアイルランドの大地を緑で覆い、家畜の餌となるシャムロックは、重要な存在だったことだろう。日本人にとっては「桜」や「米」のような存在だったに違いない。

緑の平原の広がるアイルランドの人々は緑色が好きである。ラグビーのアイルランドのチームは緑色のユニフォームにシャムロックのエンブレムをつけている。また、アイルランド移民にルーツをもつスコットランドでもっとも人気のあるプロサッカーチーム「セルティック」も、緑色のユニフォームに四つ葉のクローバーがあしらわれている。

さて、聖パトリックは、アイルランドの人たちになじみのある三つ葉のクローバーを使って、キリスト教の重要な教えである「三位一体」を説いた。そうすることで、スムーズにキリスト教を布教することに成功したのである。また、四つ葉のクローバーは、キリストの十字架を思わせる。もともと、シャムロックの三つの葉っぱは、それぞれ「希望・信仰・愛情」を示すと考えられていた。そして聖パトリックは、四枚目を「幸福」とであると説いたのである。

シロツメクサ



シロツメクサ

[科名] マメ科

[属名] シャジクソウ属

[学名] *Trifolium repens*

ちなみに、シロツメクサには、いくつか花言葉がある。

その花言葉は、「幸運」、「約束」、「私を思つて」そして、「復讐」である。

いったい、何があったのだろう。こうして花言葉を並べるだけで、何か愛憎のドラマを想像させる。

*

四つ葉のクローバーが生じる理由としては、先天的な遺伝的要因と、後天的な環境要因を考慮することができる。遺伝的な要因であれば、その株についた葉は、すべて四つ葉になる。しかし、そのような株はなかなか見つけることができない。そう考えると、よく見かける四つ葉は環境要因によって生じていることになる。

葉っぱの元になる葉原基が傷つくと、三つに分かれるはずが、四つに分かれてしまうことがあるという。そして、四つ葉が発生するというのである。

環境要因もさまざまな要因を考慮することができるが、もっともらしく言われているのが、踏まれることによって、葉原基が傷つくというものである。

本当だろうか？

私の大学の大学農場は、甲子園球場三個分の敷地があり、田んぼや畑、果樹園など、さまざまな環境がある。

四つ葉を探すのが得意な学生が、年四回、大学の農場の中の茶園とミカン園、カキ園、芝生、田んぼの畦、道ばたという六つの環境を歩き回り、どこで四つ葉のクローバーが見つかりやすいかマップ造りに挑戦した。その結果、どうだっただろう。

面白いことに、季節によって、四つ葉のクローバーが発生する場所は違うことがわかったのである。

たとえば、茶園では五月の下旬に四つ葉のクローバーが多く見つかることが明らかとなった。一メートル四方の範囲内で、四つ葉があるかどうかを確認すると、二月の調査では、まったく見つからなかったのに対して、五月下旬には、およそ二〇パーセントの確率で、四つ葉を確認することができた。

一方、ミカン園やカキ園では、一二月に四つ葉のクローバーの出現率が高まった。八月には四つ葉のクローバーの出現率が一〇パーセント程度だったものが、一二月になると、ミカン園で三五パーセント、カキ園では六〇パーセントまで高まったのである。

六〇パーセントはかなりの高い割合である。これだけの割合で出会えるのであれば、いかに幸せに見放された私でも、何とか四つ葉を見つけることができそうである。

幸せを探すのであれば、初夏の茶園か冬のミカン園やカキ園が良い。これが、学生の出した結

論である。

どうして、季節によってこのように変化をするのだろうか。

茶園は、四月の終わってから五月の初めに茶摘みのために、人が入る。あるいは、カキ園やミカン園は、秋の終わりから摘果や収穫などの作業のために人が入る。こうして、人が盛んに入る時期の後に四つ葉のクローバーが増える傾向があったのである。ということは、やはり、人に踏まれることによって、四つ葉が生じやすくなるのではないだろうか。

しつこいことに、その学生は、クローバーをたくさん鉢に植付けて、重りを置いて踏みつけた。草刈りをしたり、さまざまな除草剤をかけてみたり、とさまざまなストレスを掛けてみた。その結果、重りを置いたシロツメクサでは、すべての葉っぱのうち三パーセントが四つ葉になった。また、重りが重いほど、四つ葉が早く発生する傾向もあった。

ということは、どうやら、踏まれることによって四つ葉が生じるというのは、確からしいようだ。

やっぱり幸せは踏まれて育つのだ！

今は踏まれていても、きっと私にも幸せは訪れるのだろう。四つ葉のクローバーはそんな希望を私に与えてくれるような気がする。